

男女がお互いを尊重し、その人らしく生きる。  
仕事も暮らしも楽しむ。  
そんなあなたを応援する情報誌です。

特集

## 100年ライフに求められる 男の働き方とは？



P6

男子もスイーツがお好き？

P8

「71.2%」  
データ・ウォッチング  
30〜34歳女性の労働力率

P9

世界の仕事・家庭・生き方  
「スリランカ編」

P10

しんじゆく  
ワーク・ライフ・バランスの星

P11

「新宿区第二次  
男女共同参画推進計画」

〈平成30(2018)年度〉  
平成35(2023)年度ができました



# 100年ライフに求められる 男の働き方とは？

平均寿命が80歳を超えて定年後の人生も長くなり、いよいよ人生を100年で考える時代になりました。あなたは、どんな人生プランを考えていますか？

多くの女性は就職、結婚、出産、育児を通じて人生プランを考える機会があり、その選択に合わせて働き方を変えてきたのに対して、男性は仕事を人生プランの中心におきがちでした。

いま、少子高齢化による労働人口の減少など社会構造の変化に伴い、男女ともに働き方の見直し  
が求められています。男性もライフステージに合わせて働き方を選べる時代です。あらゆる場面で  
女性活躍を進めるためにも、100年ライフを見据えた働き方の未来を探ってみました。

## 生活的自立は？



## 仕事中心の男性の 働き方では…

## 終身雇用で定年まで



## 地域での活動の場が少ない



## 家庭より仕事が優先



## 結婚したら家族を養う



- ◆ 経済力 (20代女性)
- ◆ コミュニケーション力 (30代男性)
- ◆ 環境に合わせる柔軟さ (30代女性)
- ◆ 心身の健康 (40代男性)
- ◆ リストラされないこと (40代男性)
- ◆ どんな会社でも通用する仕事の力 (40代男性)
- ◆ 異業種との交流 (50代男性)
- ◆ 家族円満・健康・お金 (50代女性)

### Q3 将来に向けて必要だと感じていることは？

- ◆ 10年後も今の仕事を続けている (20代女性)
- ◆ やりたい仕事の勉強をしながら働く (20代男性)
- ◆ 変化に合わせて今以外の仕事に (30代男性)
- ◆ 違う価値観の仕事に就く (30代女性・会社員)
- ◆ 20年後は故郷で起業 (40代男性)
- ◆ 20年・30年後は個人事業主として働く (40代男性)
- ◆ 20年・30年後も社会と関わってみたい (50代男性)
- ◆ 続いている (50代女性)
- ◆ 続いている (70代男性)

### Q2 10年・20年・30年後の仕事や働き方は？

- ◆ 90歳、からだが動くまで (70代男性)
- ◆ 70歳まで。第二の人生を楽しみたい (80代男性)
- ◆ 生涯現役 (50代男性)
- ◆ 子どもが社会人になる10年後 (50代女性)
- ◆ 働きたいと思う年齢まで働いたら幸せ (40代男性)
- ◆ 年金開始予定の70歳 (50代女性)
- ◆ 死ぬまで人の役に立つ仕事を (40代男性)
- ◆ 70歳くらい、以降は健康のため (30代女性)
- ◆ 死ぬまで人の役に立つ仕事を (40代男性)
- ◆ 年金開始予定の70歳 (50代女性)
- ◆ 働きたいと思う年齢まで働いたら幸せ (40代男性)
- ◆ 子どもが社会人になる10年後 (50代女性)
- ◆ 生涯現役 (50代男性)
- ◆ 90歳、からだが動くまで (70代男性)
- ◆ 70歳まで。第二の人生を楽しみたい (80代男性)

### Q1 何歳まで働きたいですか？

- ◆ 想像できない (20代男性)
- ◆ 65歳、生活のため以外なら死ぬまで (30代男性)
- ◆ 仕事が趣味、死ぬまで働くつもり (30代男性)
- ◆ 70歳くらい、以降は健康のため (30代女性)
- ◆ 死ぬまで人の役に立つ仕事を (40代男性)
- ◆ 年金開始予定の70歳 (50代女性)
- ◆ 働きたいと思う年齢まで働いたら幸せ (40代男性)
- ◆ 子どもが社会人になる10年後 (50代女性)
- ◆ 生涯現役 (50代男性)
- ◆ 90歳、からだが動くまで (70代男性)
- ◆ 70歳まで。第二の人生を楽しみたい (80代男性)

## またちの声

## 100年ライフ

編集委員が新宿在勤  
・在住の男女の声を  
集めました

## 地域での ネットワークを広げたい

嶋野剛嗣さん (30代)

区内で美容室を経営しています。異業種交流で知り合った友人に勧められて新宿区男女共同参画フォーラムの実行委員に応募しました。この活動を通じて自分の意見を発信でき、地域の方々とも知り合えるのが魅力です。今後もプライベートと仕事を充実させ、地域の発展にも役立ちたい、と願っています。



### 30代

## 共働き 家事分担も当たり前

結婚するなら共働き。イクメン、キャリアを積んで働き続ける女性も増えています。ワーク・ライフ・バランスを重視したいが、重要な仕事の担い手として長時間労働を避けられない職場もみられます。今や育児・家庭と仕事の両立は男女共通の課題です。



### DATA

#### 妻にはできるだけ稼いでもらいたい

60歳代  
8.3%

VS

20歳代  
33%

「男は仕事」はもはや過去のもの？ 20歳代では3割以上の男性が「妻にはできるだけ稼いでもらいたい」と考えています。ちなみに「自分もできるだけ稼ぎたい」とする20歳代女性は約5割です。

出典：内閣府「男性にとつての男女共同参画(平成24年)」に関する意識調査報告書

### 20代

## 仕事だけが 人生ではない!

SNSを駆使して情報社会の波を乗りこなし、物よりも経験や価値を大切にす世代。就職は会社の将来性より「自分が成長できるか」を重視。

長時間労働を美德とせず、効率良く働き定時に退社。趣味や友人との時間も大切にします。



### Column

#### 男性の非正規労働者の実情

男性の非正規労働は増えていて、いまや5人に1人が非正規労働者です。非正規労働に就いている理由の第一位は女性が「家計の補助」であるのに対し、男性は「正規の仕事がないから」。非正規労働者の賃金は正規労働の約7割。賃金格差が非正規労働者の未婚率が高い要因にもなっています。

出典：総務省「労働力調査」

### Column

#### テレワーク

ITを活用した場所や時間にとられない柔軟な働き方のことです。働く場所によって在宅勤務やサテライトオフィス勤務などがあります。例えば、テレワークに適した仕事を自宅で行えば、オフィスで行うよりも集中できて成果があがることが期待できます。通勤がない分、家事・育児・介護にかかわる時間も生まれます。

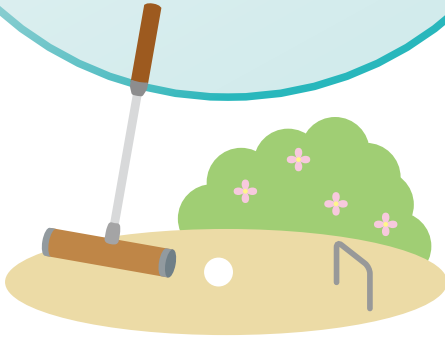




80代~

## 生涯現役を目指して

昨年80代プログラマーの女性の活躍が注目を浴びました。1960年の男性の平均寿命は65.32歳(女性70.19歳)。半世紀前には80歳を過ぎて働くなど考えられないことでした。105歳で亡くなった聖路加国際病院理事長の日野原重明さんは、今までにしたことのないことを、その年齢からでも始めようという意欲のある人を“新老人”と名付け、有償・無償に関わらず現役で社会に活躍できることの素晴らしさを提唱されていました。



Column

## リカレント教育

義務教育や基礎教育を終えて社会人になってからも教育機関に戻って学ぶことができる、スウェーデン発の生涯教育システムです。多様に変化し続ける社会に適応するには、学び続けることが大切です。生涯現役を目指して新たな仕事に役立つ知識を得たり、人脈づくりに役立てたり…。放送大学をはじめ一部の大学で既に開始されています。

DATA

## 新宿区の男性のワーク・ライフ・バランス

理想

すべての調和を図りたい  
44.0%

現実

「仕事」優先  
48.8%

「仕事」「家庭生活」「個人の時間」のすべての調和を図る生活を理想としているものの、現実には「仕事」を優先している、新宿区の男性の姿がうかがえます。

出典：平成28年度新宿区男女共同参画に関する区民の意識・実態調査

50代

## 経験を活かす働き方へ

これまで多くの男性が実践してきた企業戦士のごとく働くプランを描いては、充実した人生は送れません。人生100年なら50代はまさに折り返し地点、これからが本番です。60代・70代の人生を見据えて、身につけたスキルを武器に転職する、起業する人もますます増えてくる一方、社会人大学院に通う、自治体との協働やNPO活動に参加してみるなどのあらたなチャレンジもみられます。



40代

## イクボスは理想の上司

仕事はもちろんだけど、私生活も大事にして働きたいというのが多くの人の願いではないでしょうか。会社の取組みが大切なのはもちろんですが、直属の上司の言動が部下の働き方に大きな影響を与えます。仕事の成果を上げ、自らのプライベートも楽しみながら、部下のワーク・ライフ・バランスにも配慮し、柔軟な働き方を応援する“イクボス”が、これからの理想の上司像です。

Column

## 60歳以上の4人に1人は友人がいない

日本では60歳以上で「家族以外に相談あるいは世話をしあう親しい友人」がいないと答えた人は4人に1人。ちなみにアメリカでは10人に1人、スウェーデンでは12人に1人でした。中でも日本の男性は現役時代から仕事以外の活動が少なく、高齢になっても活動の場や友人に限られることが要因の一つにあげられ、ボランティア活動に参加する人も年齢を問わず低いのが現状です。

出典：内閣府「平成27年度 第8回高齢者の生活と意識調査に関する国際比較調査」



## 個人のライフステージに応じて 男女が生きがいを持って 働ける社会へ



渥美 由喜

㈱東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究グループ長兼コンサルタント

新宿区では、全国に先駆けて、育児・介護なども含めた社員の私生活にも配慮する「ワーク・ライフ・バランス」に取り組む企業を応援してきた。今後は企業のみならず、働く人たち、特に男性の意識改革も必要だ。例えば、今後、10年以内に団塊の世代が後期高齢者に突入すると、身内に要介護者を抱えながら働く社員は3人に1人以上となる。現在、年間10万人が介護で離職、転職しているが、3割が男性で女性の倍の勢いで増えている。誰もがライフステージのどこかで、時間制約・場所制約を抱えながら働くことが当たり前になる中で、どのように働き方を見直すかが大きな就労継続の鍵を握る。

実は私自身、少子化対策、子育て支援研究の傍ら、7年前から認知症と統合失調を患う父の介護をしながら、共働きの妻とともに2人の男児の子育てをしている。そのうち1人は難病を抱えているので、看護もしている。家庭でもやるべきことを沢山抱えながら働く中で、たえず「やめる」「簡単にする」「まねをする」「してもらう」「一緒にする」という5つのアプローチで業務の見直しをしてきた。それぞれの頭文字をとって私は「やかましい」と名付けている。例えば新たに業務が増えたならば、それまでやっていた何かを“やめる”といった具合だ。

私はこれまで国内外のべ1100社の先進企業を訪問してきた。その大半は、地方の中小企業だ。地域に密着しているからこそ、社員とその家族に配慮しつつ、地域の将来を担う「子どもたち＝未来の労働者・消費者」を大切にしている。そうした企業は、地域から支持され、労働人口が減少していく中でも、人材確保に困らない。これからは、ますます「企業にも三面性」すなわち、経済性、人間性、公共性のバランスが重要になる。

一方、社員で大切なのは「市民の三面性」すなわち、職業人、家庭人、地域人として「一人三役」を果たすことだ。自らの子育て・介護・看護の経験で身に付けた「相手を主語にして考える」スキルは、職場で管理職として部下をマネジメントする際に、非常に役立っている。ぜひ、男性たちには、三面性にチャレンジしてほしい。

### あつみ・なおき

東京大学法学部卒。富士総合研究所、富士通総研を経て現職。内閣府「少子化対策推進会議」「ワーク・ライフ・バランス官民連絡会議」、厚生労働省「イクメンプロジェクト」委員等を歴任。

## 70代

### 高齢者と呼ばないで!

高齢者のイメージもがらりと変わりました。高齢者として扱われることに、違和感を覚える70代も多いのではないのでしょうか。高度経済成長のなか、年功序列賃金・終身雇用制度のもとで残業もいとわず働いてきた世代が70代を迎えています。仕事ひと筋に働いてきただけに、仕事以外の人間関係が希薄で、定年後の生活に戸惑っている人も多いはず。この世代ならではの経験値を活かすためには現役時の肩書きにとらわれず、交友関係や活躍の場を広げていきましょう。



## 60代

### まだまだ活躍 居場所もほしい

能力も体力もまだまだ現役、60歳定年では早すぎる。年金受給開始年齢までは意欲と能力に応じて働き続けられる就労環境の整備が求められるなか、官民を問わず定年延長の動きがみられます。長寿社会では老後の蓄えも重要ですが、いかに社会と関わっていくか、自分なりの居場所づくりも大切です。



### 経験を活かし生きがいづくり

#### おもちゃ学芸員 門脇興次さん(60代)

定年後も社会の役に立ちたいと思い、教員時代に手作りおもちゃで夢中に遊ぶ子どもたちを思いだし、おもちゃコンサルタントの資格を取得しました。月3回東京おもちゃ美術館でおもちゃ学芸員のボランティアをしています。子どもたちからは元気を、先輩学芸員からは刺激をもらっています。今後は東京オリンピック・パラリンピックのガイドにも挑戦したいです。



# 男子もスイーツがお好き？

一般的にスイーツは女性が好きなものというイメージがあります。  
 ですが、本当にそうなのでしょうか？  
 スイーツを中心に、ジェンダーの視点から食に関するあれこれを調べてみました。

OTO GUOMO OHAGI



MEN'S PUDDING



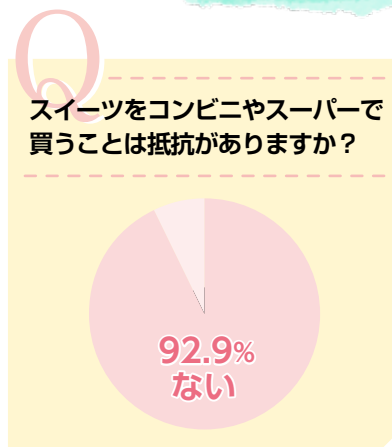
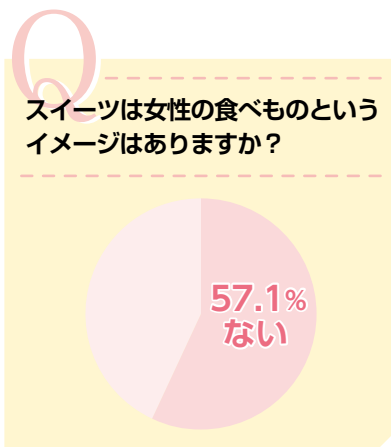
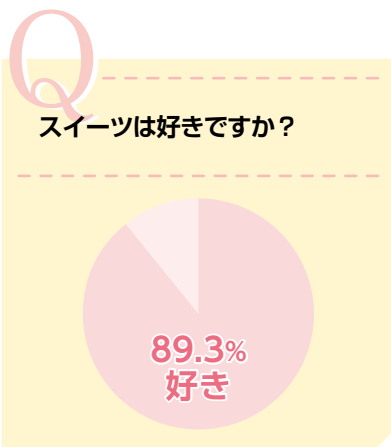
SAMURAI CHEESE TARTE



編集委員が男性に対して行ったアンケート結果を紹介します

## 「男性に聞いてみました スイーツについてどう思いますか？」

(回答者 区内在住・在勤の男性28名 20代~70代)



### 男性もスイーツは好き！

アンケートでは、約9割の男性がスイーツは「好き」という答えでした。中には「大好き。毎日何かしらスイーツは食べています」(30代)という男性も。

「スイーツは女性の食べ物」というイメージについては、約6割の男性が「ない」と答えています。中には「自分にはないが、世間的にはあると思う」(30代)という意見もありました。

スイーツをコンビニやスーパーで買うことについては、約9割が「抵抗がない」と答えています。

「全くない。普通に買えます」(30代)という意見があった一方、「抵抗がある」という意見には「子どものものなら買えるが自分のものとなると気恥ずかしい」(40代)「知り合いに見られたくないという気持ちがある」(50代)という意見があり、世代によってはスイーツには女性や子どもの食べ物というイメージがあるようです。

### コンビニが「スイーツ」のイメージを変えた

男性のスイーツ嗜好に対する偏見や抵抗感が薄れてきた背景にはコンビニエンスストアの販売戦略があるようです。

あるコンビニチェーンでは約10年前からシュークリームやプリンなどの男性向けスイーツシリーズを展開しています。当時は今よりもスイーツは女性が好んで食べる物というイメージがあり、甘い物を食べたい男性が気兼ねなく購入しやす

## コラム① CMにみる食のジェンダー

今や「男子厨房に入らず」は死語となりました。ですが、未だに食品や家電などのテレビCMでは女性が調理するシーンが多くみられます。

主な購買層である女性をターゲットにしたものですが、最近、家電メーカーのテレビCMでは、夫婦共働きという設定で夫を演じる男性俳優が料理をしているというシーンがありました。女性からの好感度は高かったようです。

共働き家庭が増加するにつれ、男性が家事を担う家庭も増えていきます。購買層が男性にも広がることにより、食品や家電のCMでも男性が料理をするシーンが増えてくることでしょう。「カジダン（家事をする男性）」という言葉も死語になる日も近いかもしれません。



いような黒をベースにしたビジュアルのパッケージで売り出したというのが始まりのようです。その後、スイーツ男子」という言葉も生まれるなど、近年では男性向けスイーツの市場も拡大しています。

### あなたは甘党？ 辛党？

そもそも、スイーツは女性が好むものという固定概念はどこからきているのでしょうか。

関連した言葉に「甘党」という言葉が

あります。甘党は文字通り甘いものを好む人ですが、もともとは酒などよりも甘い菓子を好む人を指す言葉でした。古くは酒が苦手で甘いものばかり食べる成人に対する蔑称で、いい年をして酒も飲めない軟弱な人を表す言葉として用いられてきました。

こうしたことと言葉の持つ意味とがいまっつて、日本には男性もお酒が好きな辛党、女性もお酒が苦手な甘党という固定概念が生まれたのではないのでしょうか。固定概念の形成にはメディアの影響も色濃く出ます。可愛い包装紙に包まれたチョコレートや花・ハート等の飾りつけをした美しいケーキ。CMや雑誌ではスイーツと女性モデルの組み合わせが一般的です。そうして作り上げられたイメージが、私たちの中に定着したときに、スイーツは女性のものという社会概念となります。

日常生活を送るうえで社会通念は一つの判断基準であって正解ではありません。縛られ過ぎていると窮屈に。辛党と甘党も個人の好みは、スイーツ好きに性別の差がないことは、皆さんも実感しているのではないのでしょうか。

### スイーツは女性のもの？ は日本だけ？

海外でもスイーツは女性のものというイメージはあるのでしょうか。

日本在住の外国人に聞いてみると、「日本で販売しているスイーツ自体、可愛らしいパッケージが多く、最初から女性をターゲットにしているように思う。」

## コラム② ご飯をよそうのはだれ？

「夫と旅館での食事の際、仲居さんがおひつとしゃもじを私のほうに寄せて置いていく」という女性の投稿がSNS上で話題になりました。「ご飯をよそうのは女性の役目であると決めつけるのは女性蔑視」という意見や「自分は置かれても気にしない」「真ん中に置けばいい」などさまざまな意見が交わされました。

旅館でのおひつの置き場所はささいな事柄のように思えますが、食に関する女性の役割、男性の役割とされる事例は身近にみられます。

「会社の宴会で水割りセットが女性社員の前に置かれる」「デートでレストランに行くと男性の方に伝票が置かれる」「男性社員は酔いつぶれるまで飲まされることがある」等々。何げなく受け止めていたことでもジェンダーの視点から見ると違和感のある事例はさまざまあります。



海外ではもう少し中性的なデザインが多い（アメリカ出身・男性）

「好き嫌いはあるが、老若男女、食べます」（香港出身・男性）

「スイーツは女性のものという感覚はあまりない」（中国出身・男性）

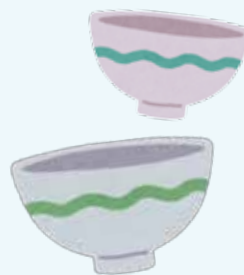
「こんな美味しいものを堂々と食べられないなんて、固定観念にとらわれている日本人男性はかわいそう」（アメリカ出身・男性）

などの意見がありました。

## コラム③ 器にも性別がある

夫婦茶碗など、日本には性別により大きさが違う器があります。性差別？と思ってしまうがちですが、実は日本古来の食事スタイルと大きく関係しています。

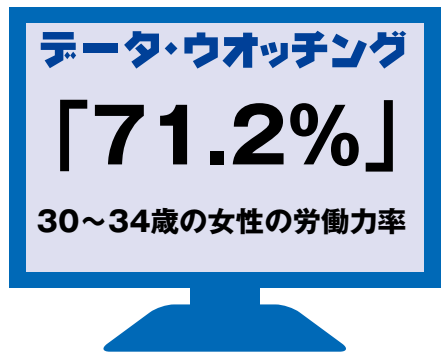
今では座卓やテーブルで食事をするのが当たり前ですが、明治以前は畳や床に箱膳を置いて食するスタイルでした。器と口の距離が離れているため、お椀や皿を手を持つ必要がありました。そのため手の大きさに合わせ持ちやすいよう男女で器の寸法が決められてきたそうです。使いやすさから器の性別が生まれたというわけです。



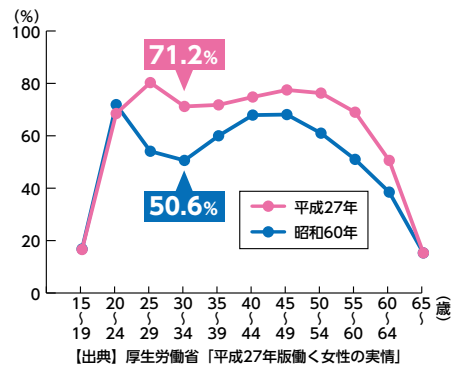
海外に住んでいる（または住んだ経験のある）日本人からは「男性もスイーツをよく食べているように思う。中年男性2人組がアイスクリーム食べながら歩いたりしているのを見るとちょっとほっこりしたりする」（スイス在住・女性）「ランチのあと男性も当然のようにデザートを食べていた」（イギリス在住・男性）

「菓子店で男性客をよく見かける。夫も自分で好きなマカロンを買ってくる」（フランス在住・女性）

欧米では食事の最後にデザートを食べる習慣があります。こうした習慣ともいまってスイーツは女性のものというイメージはほとんどないようです。



女性の年齢階級別労働力率の推移



労働力率を年齢階級別のグラフにすると、日本の女性の場合、子育て期にいったん下がりが、子育てが一段落した後に上昇する、いわゆる「M字カーブ」を描いてきました。女性の労働力率は年々上昇しており、平成27年のM字の底は30〜34歳で、71.2%となっています。

・介護休業法の制定など家庭責任を担いながら働ける環境づくりが進められてきました。近年は短時間勤務制度などを導入する企業も増えており、出産後も仕事を諦めずに働き続けられる環境が整ってきました。また、パートタイム労働など働き方が多様化したことにより、子育てが一段落した後でも再就職しやすい環境になってきたこともM字カーブが緩やかになった一因といえます。

### 女性の半数以上は非正規雇用者

さらに詳しくみると、男女雇用機会均等法が制定された昭和60年の30〜34歳の労働力率は50.6%でした。30年間で20.6ポイントも上昇したことがわかります。M字カーブも緩やかになり、欧米にみられる台形に近くなってきています。

働く女性が増えたとはいえ、女性の半数以上は非正規雇用者です。平成28年の女性の非正規労働者は、前年より低下したものの55.9%でした（総務省「労働力調査」）。

M字の底が上がった要因の一つは、働き続ける女性が増えたことです。男女雇用機会均等法をはじめ、育児

非正規雇用の利点は「限られた時間で働ける」「希望の業務だけに従

事できる」「人事異動や転勤がない」といった働きやすさにあります。「新宿区男女共同参画に関する区民の意識・実態調査（平成28年）」によると、配偶者のいる女性の4割近くが、非正規労働を選んだ理由として「家事・育児・介護との両立のため」を挙げています。一方、4人に1人の女性が「正社員として働ける勤め先が見つからなかったから」という理由で非正規就労に甘んじている実態もうかがえます。

非正規労働には、「雇用の保障」「賃金格差」「福利厚生」の面で正規雇用者との間に大きな差があることや、キャリア形成が困難であることなどのデメリットもあります。

多様な働き方のできる社会にむけて、雇用形態にかかわらず、仕事内容に応じて等しい待遇の実現が求められます。

### 多様な働き方ができる社会へ

働く女性のためのさまざまな施策や制度の改正を経て、女性活躍推進法も施行されました。働きたい女性とその希望に合った働き方を実現できるよう、各企業の取組みをさらに実効性のあるものにしていくことが大切です。多様な人材がそれぞれのライフスタイルに応じて活躍できれば、女性に限らず、誰もが働きやすい社会につながるでしょう。

## 本の紹介

### 『95歳まで生きるのは幸せですか？』

瀬戸内寂聴、池上彰／PHP新書



100歳まで生きるなんて、最近までは考えられませんでした。今では到達可能となって、その長さに不安を感じていませんか？

100歳まであと5年となった瀬戸内氏は、若い人への負担を申し訳ない。せっかくだいだいた『命』だから、長生きしてまで後世に伝えるものの意味を波乱万丈の人生を振り返りながら語っています。現代世相の解析に長けた池上氏の解説と合わせ、人類未踏の100年ライフに向き合う“老い方のレッスン”を学んでみませんか。

### 『男が働かない、いいじゃないか！』

田中俊之／講談社＋α新書



少々過激なタイトルですが「男は仕事を辞めてもいい」と退職を勧める内容ではありません。男性は「定年まで働くべし」「女性をリードすべし」「年収は高くあるべし」とい

った不条理な重圧について、著者は軽妙な語り口で論破しています。男性の生きづらさに寄り添いつつも、もっといろいろな生き方を認めることから始めよう。生きづらさの解消につながり、柔軟に世の中に対応することができるからです。女性にも読んで欲しい一冊です。

### 『生涯未婚時代』

永田夏来／イースト新書



生涯未婚率が過去最高を記録しました。それは「結婚を人生設計に組み込まない若者の登場」と著者は言います。「結婚をする人生もしない人生も同じくらい尊い」という考え方の背景には、

結婚が当たり前に組み込まれる人生設計の崩壊があります。社会全体で共有する人生設計は、もはや存在しません。社会規範としての結婚は終わりを告げ、選択としての結婚へとシフトする今、結婚をする・しないにかかわらず自分らしく生きる事が大事。これから生きるための必読書です。





## 世界の仕事・家庭・生き方

国が変われば事情も変わる。  
日本の大学に留学後、新宿区  
内の企業で働くスリランカ出  
身のジャヤティラカ・ピレン  
ドラさんにお聞きしました。



——日本への留学や就職の経緯についてお聞かせください。

高校のとき先輩に誘われて立命館大学のサミットに参加しました。多くの友人ができ、京都の雰囲気も気に入りました。大分の立命館アジア太平洋大学に留学しました。大分では英語が通じず苦労しましたが、温泉での地元の人との裸の付き合いが楽しく日本語も上達しました。

スリランカで国営放送の学生キャスターを務めていたので、エンターテイメントに関わる仕事がしたいと思っていました。吉本興業を受けたのは友人の勧めで、オープンでウェルカムの雰囲気自分が合うと思ったからです。

——吉本興業ではどんな仕事をしているのですか。

当社はエンターテイメントに関わるさまざまな分野の人材を育成する学校事業も展開しています。今はそのスクール事業のサポートを行っています。次世代のエンターテイメント界を担う才能を育てることに魅力を感じています。

——日本では特に働く場での男女差がまだまだあります。スリランカではどうですか。

スリランカは世界初の女性首相が誕生した国

です。そうした環境もあり、働き方や意識の違いなどで男女差を感じたことはありません。

スリランカの女性は強いと思います。20数年にわたる内戦で男性が戦争に行き、女性が家庭を守らなければならなかった事情が関係しているかもしれません。

——スリランカの女性は、結婚や出産後も仕事を続けますか。

日本のような制度はありませんが、一般的な会社で3か月の産休があり、復帰して仕事を続ける女性は多いです。

共働きの多くは、祖父母が育児を担ったり、ハウスメイドなどを雇ったりして働いています。男性の育児協力もかなりあります。私の家庭も同様で、父も家事や育児を分担してお弁当も作ってくれていました。父が学校に迎えに来てくれると嬉しかったですね。

——日本の風習や文化で感じたことがあればお聞かせください。

大分で熊本地震を経験しました。隣近所で助け合ったのが印象的でした。日頃の付き合いがあつたので助け合えたと思います。新宿は大分と比べると大都会です。いろいろな国の外国人が集まっていて刺激的なまちですね。

——今後の夢や目標をお聞かせください。

ドラマの「おしん」はスリランカでも大人気でした。『お笑い』だけでなく日本のエンターテイメントを世界に発信し、吉本興業をトヨタ並みに知られる日本企業にしたいと思っています。

## 男女平等事情



茶葉の収穫風景

かつてはセイロンと呼ばれ、紅茶の産地で知られるスリランカ(光り輝く島)。アジアで最初に女性参政権を獲得した国で、現在の国名に改名したのは世界初の女性首相シリマウォ・パンダラナイです。大学まで無償で教育が受けられる世界でも数少ない国の一つで、大学の進学率は男性より女性が上回っています。しかしながら、社会での女性の活躍をみると、

教員(7割が女性)や医療に占める女性割合は高いものの、女性の労働力率は南アジアの中でも低く35%、所得格差も男性の39%と大きな男女格差がみられます。  
男女平等指数(ジエンダーギャップ指数)は109位(日本は114位)。政治分野で日本を上回っています。

多民族、多宗教国家で、26年間に及ぶ内戦では約7万人が犠牲となりました。

しんじゅく

## ワーク・ライフ・バランスの星

仕事も生活も  
輝いて

「お客様を笑顔にするためにはスタッフも自分自身もいつも笑顔でいられる働き方を心がけています」

ハンバーガーショップの新宿エリア8店舗の総括マネージャーとして活躍する末富さん。部下からの信頼も厚く、率先して自分らしいワーク・ライフ・バランスを実践しています。

イクボスで  
「働き方改革」

## 末富 崇仁さん

プレゼンツコンサルティング  
株式会社  
新宿エリア統括マネージャー

1999年 大手ハンバーガーチェーン入社  
2006年 同社にて店長昇格  
2007年 結婚  
2015年 同社退職、プレゼンツコンサルティング株式会社入社  
2017年 現在（新宿エリア統括マネージャー）に至る。



野球観戦も二人で

## 残業しない、させない

実は前職では長時間労働をせざるを得ない職場環境で働いていました。そんなとき当社への誘いを受け転職しました。

飲食店では残業が常になりがちですが、当社には残業という概念がありません。

キッチンでの清掃や数々のバックヤードの仕事を外注し、閉店後の業務からスタッフが解放されるような工夫をしています。

マネージャーとして心がけているのが私自身残業しないことです。部下に残業させないためには、上司が残業しない働き方を実践することが大事だと思います。

## 誰もが働きやすく活躍できる職場に

女性が中心の職場です。新宿ならではの外国人や留学生も働いています。文化習慣が異なる人たちがともに働けるよう、個人の背景・状況を理解しながら、働きやすい職場環境を提言しています。

子育てをしながら正社員として勤務する女性の声を聴き、その人たちがキャリアの夢を描けるように支援することにやりがいを感じています。

## 「イクボス」として期待しています



土肥 賢一さん  
プレゼンツコンサルティング  
代表取締役社長

新宿エリア責任者として、特に労働環境向上に力を入れてくれています。事業展開のなか、人材確保・育成はとても大きなやりがいです。今後も更にリーダーシップを発揮して皆の個性を引き出していきましょう。

苦になることはありません。16時に退社できるので、買い物をして晩ご飯をつくる時間的余裕もあります。女性スタッフさんと献立や安売りの話題を共有できるのも強みかもしれません。

## 仕事の質と効率を上げる

先に仕事があるの「ワーク・ライフ・バランス」ではなく、個人の生活を充実させる「ライフ・ワーク・バランス」があるべき働き方ではないでしょうか。

仕事の効率化と質を上げた先にあるものがバランスの取れた働き方だと思います。私が進んで取り組むことでスタッフさんにもその考え方が浸透し、各々が仕事にプライドを持つることにつながっています。

家事は得意なほうがやればいい夫婦共働きです。妻には存分に仕事をしてほしいと思います。結婚したときに妻から「家事はあなたがしてね」と言われ、その時の約束通り家事は主に自分がこなしています。実は私は家事が得意で、学生時代から自分ですることに慣れていたので

## タイムスケジュール

## 出勤日

4:30 起床  
5:30 出勤  
7:00 店舗勤務開始（開店業務・店長教育・販売促進会議など）  
16:00 退社（遅番責任者へ引継ぎ）  
18:00 買物をして帰宅（洗濯、簡単掃除、夕食、片付）  
20:00 家族の時間  
23:00 就寝

## 休日

7:00 起床（朝食、洗濯、掃除）  
11:00 車での買物  
12:00 昼食  
13:00 趣味など自分と家族の時間（ライブに出かけたりする）  
19:00 夕食  
20:00 翌日の準備、片付  
23:00 就寝



# 「新宿区第三次男女共同参画推進計画」 を策定しました



この計画は、新宿のまちに住む人々はもとより、新宿で働き、学び、活動するすべての男女が、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、責任も分かち合い、共にあらゆる分野に参画することのできる社会を実現していくことを目的として策定しました。

## 計画 ビジョン

誰もが個人として尊重され、自分らしく豊かに生活できるまち新宿

### 3つの視点

### 目標／個別目標

1

誰もが個性と能力を十分に発揮できるまちをめざします。

#### 〈ともにみとめあう〉

##### 目標1 多様な生き方をみとめあう社会づくり

- (1) 人権の尊重と男女共同参画を推進するために意識啓発を行います。
- (2) 固定的な性別役割分担意識を解消します。
- (3) ライフステージに応じた健康支援を行います。

2

多様なライフスタイルが実現し、あらゆる場面で男女が公平に参画できるまちをめざします。

#### 〈ともにささえあう〉

##### 目標2 ワーク・ライフ・バランスと働き方改革の推進

- (1) 働き方に対する意識啓発を推進します。
- (2) 仕事と家庭の両立のためのワーク・ライフ・バランスを推進します。
- (3) 子育てや介護と仕事を両立できる支援を行います。

#### 〈ともにかがやく〉

##### 目標3 あらゆる場面における男女共同参画の推進

- (1) 働く場における女性の活躍を推進します。
- (2) 政策・方針決定過程における女性の活躍を推進します。
- (3) 地域における男女共同参画を推進します。
- (4) 教育の場における男女共同参画を推進します。

新宿区第二次女性の職業生活における活躍推進計画

3

あらゆる暴力のない尊厳をもって暮らせるまちをめざします。

#### 〈ともにおもいやる〉

##### 目標4 人権の尊重と配偶者等からの暴力のない社会の実現

- (1) 配偶者等からの暴力の防止に向けた意識啓発と情報提供を行います。
- (2) 被害者の相談体制を充実します。
- (3) 被害者の安全確保と自立のための支援を行います。
- (4) 配偶者等からの暴力の防止に向けた推進体制を充実します。

新宿区第二次配偶者等暴力防止及び被害者支援基本計画



#### 〈ともにすすめる〉

##### 目標5 協働により計画を推進するための体制づくり

- (1) 区民や事業者、NPO等の参加により男女共同参画を推進します。
- (2) 庁内における計画の推進体制を充実します。
- (3) 国・都と連携して、男女共同参画を進めます。

計画全文とお寄せいただいたご意見と区の考え方は、男女共同参画課（男女共同参画推進センター・ウィズ新宿）（荒木町16）、区政情報課（本庁舎3階）、区政情報センター（本庁舎1階）、特別出張所、区立図書館で閲覧できます。また、新宿区ホームページでもご覧いただけます。

平成30年度 編集委員を募集します



# 『ウィズ新宿』を いっしょにつくりませんか

実は区民の編集委員がつくっている『ウィズ新宿』。「読書が好き」「文章を上手に書けるようになりたい」「編集に興味がある」「イラストが趣味」のあなた、初心者でも大丈夫です。男女共同参画について一緒に学びながら、プロの編集者の指導のもとで情報誌を作りましょう。皆さまのご応募をお待ちしています。

**応募資格** 土曜日午前の編集講座（3日間）と編集会議（月に1～2回）に出席できる方で、区内在住・在勤・在学の18歳以上の方。\*詳細は募集要項または区報3月15日号を参照

**募集期間** 平成30年3月15日（木）～4月6日（金）

募集要項は男女共同参画推進センターのほか、区立図書館・出張所・地域センター等で配布します。また、新宿区のホームページからダウンロードもできます。

**問合せ** 男女共同参画課 ☎03(3341)0801

## しんじゅく女性団体会議

区内の女性団体の連携と女性のエンパワーメントをめざし、年6回の定例会を行っています。現在10団体が活動中です。平成29年度は、メインテーマを「女性と子どもの人権」、サブテーマを「次世代育成」とし、下記の研修等を実施しました。

### 研修

#### 「女性と子どものための相談について」

講師 男女共同参画課長  
子ども総合センター総合相談係主査

### 公開講座

#### 「イマドキの子育て事情～「他孫(たまご)育て」のススメ～」

講師 NPO法人孫育て・ニッポン理事長 ぼうだ あきこ氏

#### 「ともに子どもの心を育む関わり方を学ぼう！」

講師 玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授 渋谷 行成氏

### 研修会

#### 「子どもを取り巻く環境について」

講師 警視庁新宿少年センター主査  
子ども総合センター総合相談係主査

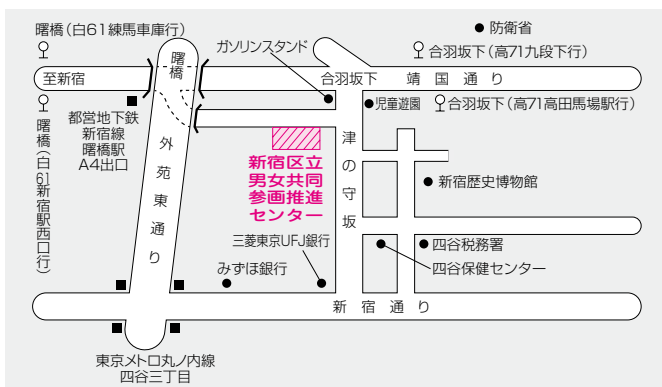
### 日帰り研修会

#### 更生施設栃木明德会

新規団体を随時募集しています。下記の要件を満たしている団体が申込できます。

- ①区内に活動拠点をもち、2年以上継続的に活動している。
- ②女性の地位向上と一般的な教養を高める活動を継続して行っている。
- ③会員数が20名以上で、構成員の半数以上が女性かつ8割以上が新宿区民

問合せ 男女共同参画課 ☎03(3341)0801



## ◆ 編集委員を終えて ◆

「男女共同参画」という言葉は堅苦しくて思わず身構えてしまいましたが、誰もが自分らしくいきいきと暮らせる社会を目指すこと。そう考えたら、とても身近で大切な問題だと思えました。2冊の編集を通じて、今までよく知らなかった問題を深く掘り下げ自分なりに考えることができました。先生のご指導の下、有意義な1年を過ごせたことに感謝しています。（岩田弥生）

編集をやりたいという気持ちだけで応募しましたが、改めて、人とくらしから生まれる社会の問題に目を向け考える機会を得られました。多様化する情報社会は、違う視点の考え方がいくつもあり、複雑化しています。難しい問題ですが、大切なことは、一つの問題に、違う視点からも見ること。この経験を通じて、自分の視野や考えが広がったことを感じました。（相宅志保）

インタビューした海外の方はお国柄がでて楽しいだけでなく、男女が平等に協力し合う関係性を自然に持っておられました。一方、日本の女性も男性も、日常の小さなことにまで潜む「性別分業意識」で生きづらくなっているかもしれないと感じた1年でした。自分の住む日本、東京、新宿がより住みやすく、素敵なまちになるよう、男女共同参画意識を啓発していければと思います。（木村桂子）

「男はかくあるべき」または「女はかくあるべき」のような考え方は、誰のためにあるのでしょうか？男にしか、あるいは女にしかできないことというのは案外少ないのでは。男性は、女性とは違った形の生きづらさを抱えているのではないのでしょうか。お互いに重い荷物は一緒に持って、持たなくていい荷物は手放す選択もして、いきいき生きていける社会にしていけることが大事だと思います。（栗田寛子）

今まで自分の経験でしか物事を考えられなかったように思いますが、この1年の編集委員の活動を通して多様性が大事なことだと意識するようになりました。また、この1年は世界中でいろいろな女性問題がニュースになりました。多くの人がこれらのことに目を向けて豊かな多様性のある社会になればと思っています。（林 敦子）

目まぐるしい勢いで、世の中が変化していると感じます。信じたものの価値が一夜にして崩れ去る時代。何に重きを置かかわかっていることが大事です。高速回転にも耐えうるコマの軸のように、人生にも太い軸を持つこと必要なかもしれません。100年ライフに思うことは、それぞれ違うでしょう。確かなのは、お互いの価値観を認め合うことが生きやすさへの第一歩だということです。（坂本 萌）

編集委員の仕事は、あえてたとえるならオーケストラの楽団員のようなものでした。コンダクターのもと団員として、最大限に能力を開花できたとは思いませんが、八分咲き位にはなれたかもしれません。いろいろな手法で記事を仕上げている工程は学びが大変多かったです。最後に何より素晴らしい仲間恵まれこの任務を遂行できたことは一生の思い出になります。（古川絵里）

## 編集後記

インタビューや取材を通じて、多くの方から貴重なご意見をいただきました。普段、「目の前のことで精いっぱい」と思っている皆さんも、長い人生の中で、働き方や生き方、将来やりたいことを、一緒に考えてみませんか？今後、女性の100年ライフも取り上げていきたいと思ひます。

### 表紙写真

新宿から世界へエンターテイメントを発信（右上）、お父さんも育児の時代（左上）、イクボスで活躍（下）



発行 新宿区子ども家庭部男女共同参画課  
新宿区立男女共同参画推進センター  
〒160-0007 東京都新宿区荒木町16番地  
TEL03(3341)0801 FAX03(3341)0740

発行日 平成30年3月30日



この印刷物は再生紙を使用しています。